

平成 29 年 6 月 16 日

新事業創出に向けた支援の強化について

めぶきフィナンシャルグループの常陽銀行（頭取 寺門 一義）と足利銀行（頭取 松下 正直）は、このたび、新事業創出に向けた資金面での支援を強化するため、昨年 11 月に組成した「めぶき地域創生ファンド」を増額（20 億円から 40 億円に倍増）することとしましたので、下記の通りお知らせいたします。また、大学発のベンチャー創出・事業化支援のためには、「めぶきビジネスアワード」とは別の取り組みが必要であり、現在新しい枠組みを検討していることもあわせてお知らせいたします。

めぶきフィナンシャルグループ各社は、今後とも、地域の課題解決に積極的に取り組み、地域社会・地域経済の発展に貢献してまいります。

記

○施策の概要

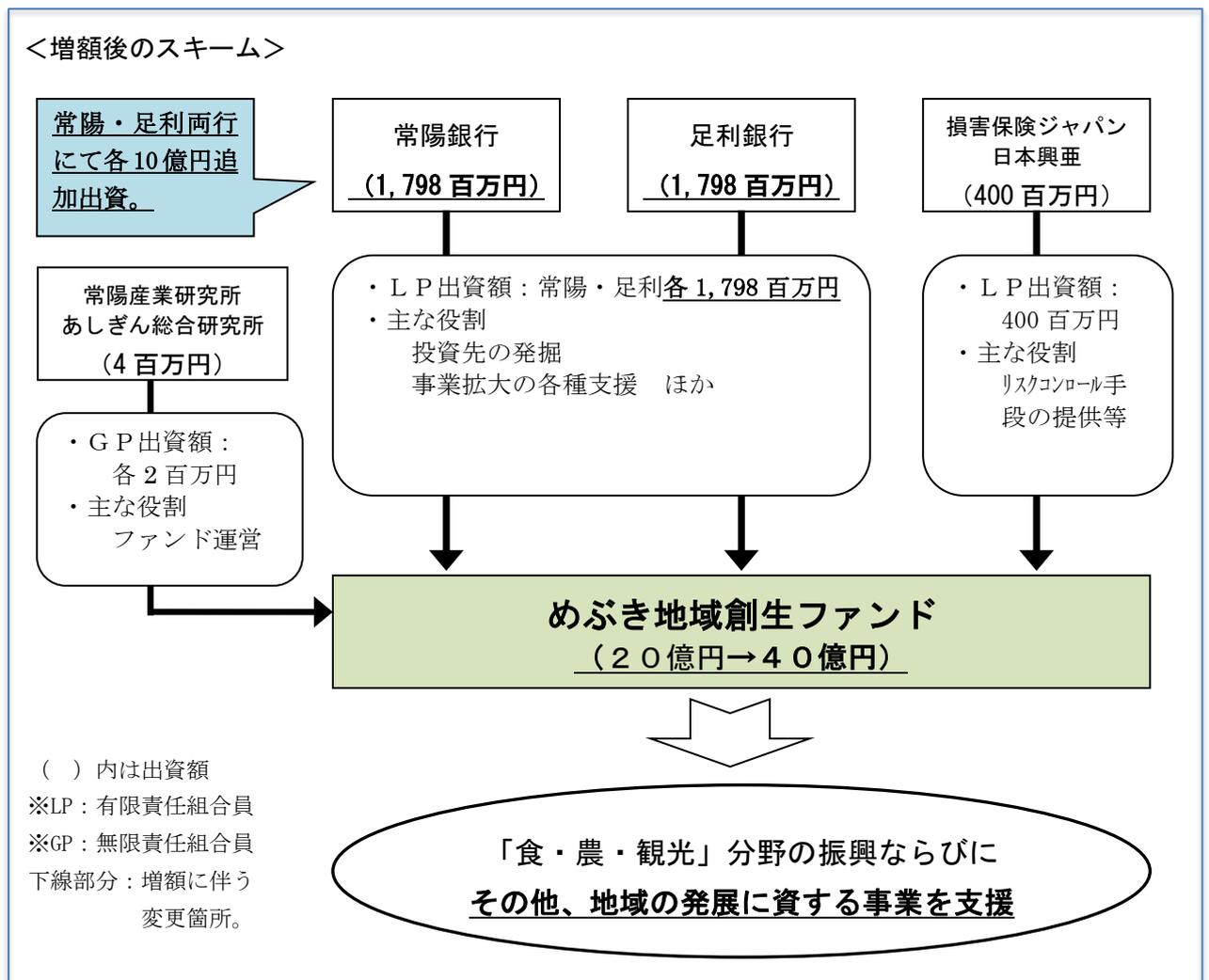
施 策	概 要
①めぶき地域創生ファンドの増額 (増額実施日:平成 29 年 6 月 16 日)	・事業化フェーズ以降について、当ファンドを通じた資金支援の実施。 ・ファンド総額を増額（20 億円→40 億円）。
②大学発のベンチャー創出・ 事業化支援 (取扱開始日:平成 29 年上期中)	・研究開発、試作品開発等を支援するための新たな枠組みを検討。（詳細については、今上期中にあらためて公表させていただきます。）

以 上

(ご参考)

①めぶき地域創生ファンドの増額について

- ・平成 28 年 11 月に「食・農・観光」分野の振興等を目的に『めぶき地域創生ファンド』を 20 億円で組成。
- ・常陽・足利両行が各々10 億円を追加出資し、ファンド総額を 40 億円に増額。
- ・投資対象は「食・農・観光」分野のほか、地域の発展に資する事業も対象とする。



②大学発ベンチャー創出・事業化支援について

- 大学での研究成果が事業化に至るまでには、「a 基礎研究→b 開発→c 事業化→d 産業化」の過程を辿るが、a 基礎研究と b 開発の間には「魔の川」、b 開発と c 事業化の間には「死の谷」と言われる大きなGAP（資金の出し手不在の空白・隙間）が存在する。（下図）
- このGAPを埋め、研究や試作品開発等の継続を支援するための新たな枠組みが必要。

